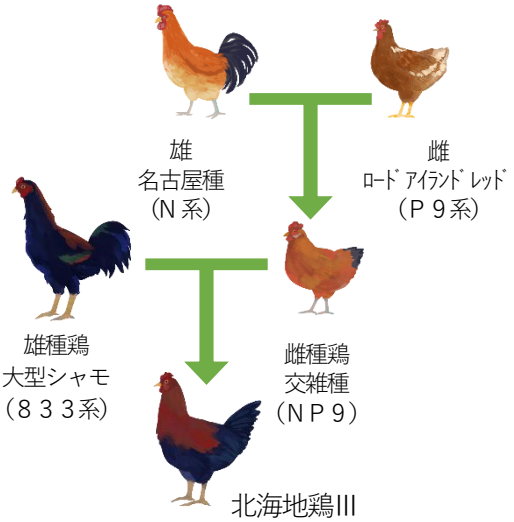
2021 年 12 月改

北海地鶏IIIの飼育法（簡易版）

○交配様式

「北海地鶏III」は、名古屋種Ｎ系の雄にﾛｰﾄﾞｱｲﾗﾝﾄﾞﾚｯﾄﾞ Ｐ９系の雌を交配したＦ１雌鶏に、シャモ大型系統（833 系統）の雄を交配した三元交雑鶏です。



○標準能力

「早く仕上げる用」飼料体系で飼育した能力です。
飼育環境（密度、気温など）や飼料によって増体は異なり、
「じっくり仕上げる用」飼料体系では発育は緩やかになります。

	雄			雌		
週齢	10	11	12	10	12	14
kg	2.5	2.8	3.2	1.8	2.2	2.6

○生産体系

入手できる飼料や生産目的に合った体系を選びましょう。
出荷の１週間以上前から、抗菌剤・抗生物質等を含まない飼料を与えましょう。
「早く仕上げる用」では、体脂肪の蓄積が増えることがあるので、体重を測定して適期出荷しましょう。

週齢		0	1	2	3	4～9	10～出荷前日
温度管理		33℃	除々に下げる		24℃	加温なし（15～25℃）	
飼料体系	早く仕上げる用	ブロイラー前期用または幼すう用飼料				ブロイラー仕上用飼料(休薬飼料)	
	じっくり仕上げる用	幼すう用飼料				中すう用飼料	ブロイラー仕上用飼料(休薬飼料)
飼育密度		1m^{2}当たり15羽以下				1m^{2}当たり2～3羽程度（放飼場設置が望ましい）	

○各飼料の栄養含量

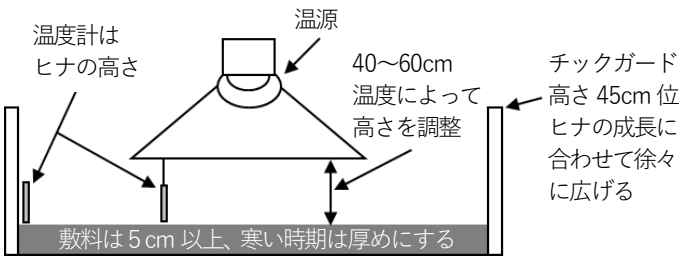
購入飼料を使う前には、添付の表示票に記載されている成分量を確認しましょう。

飼料名	粗蛋白質（CP）	代謝エネルギー（ME）
幼すう用配合飼料	22%	2,900kcal/kg
中すう用配合飼料	17%	2,800kcal/kg
ブロイラー前期用飼料	22%	3,000kcal/kg
ブロイラー仕上用飼料	19%	3,280kcal/kg

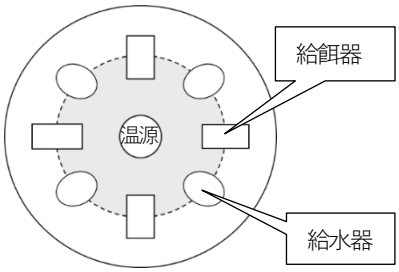
１．入雛準備をしましょう

１）鶏舎や器具は十分に水洗い、乾燥、消毒し、水洗いできない場所には消石灰を散布しましょう。
２）清潔な敷料を厚さ５cm 以上（寒い時期はさらに厚く）敷き込みましょう。
３）保温施設、器具（給餌器、給水器）、温度計を設置しましょう。
・保温施設　　小羽数（100 羽程度）：古コタツやヒヨコ電球などで保温
　　大羽数（500 羽程度まで）：専用のガスブルーダーで保温
・給餌器と給水器は 100 羽毎に２個以上準備しましょう。
・温度計は最低最高気温が記録されるタイプを、温源の下および最も遠いところに、ヒヨコの高さで設置しましょう。
・保温施設の周りをチックガード（熱に強くて柔軟かつ水洗いできるプラ板など）で円形に囲いましょう。
・すきま風が入らないようにしましょう。
４）前日までに準備を終わらせて加温し、33℃程度に保たれているか朝晩温度をチェックしましょう。給水器には水を入れて温めておきましょう（冷たい水は厳禁です！）。

【設置例：横から】



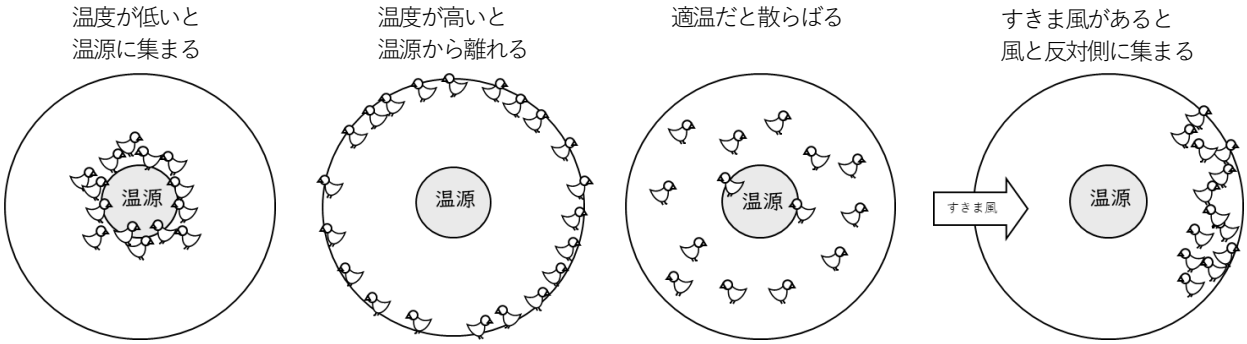
【レイアウト例：上から】



・・・裏面へ続く・・・

2．入雛時の温度管理（育雛初期の温度管理は一番大切です！）

・入雛してから最低３日間は 33℃で保温し、３～４週間かけて廃温（温度を徐々に下げて室温すること）します。
・雛の状態を見て温度管理を行いましょう。

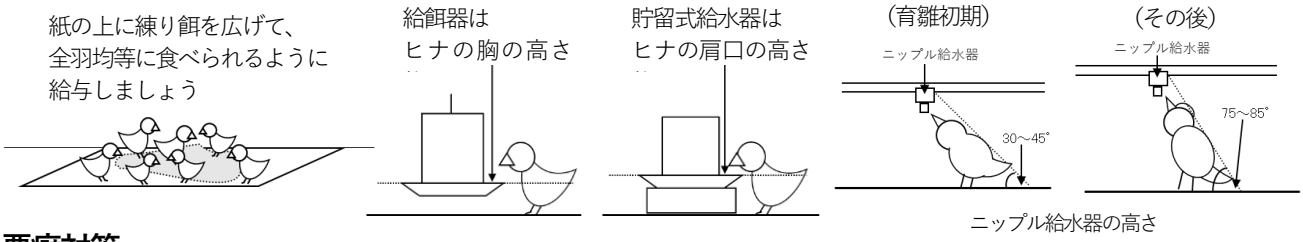


3．飼料管理

・入雛後２日間は、餌付け用の飼料に水を混ぜた練り餌を、全部の雛が均等に食べられるように紙など平らなものの上にばらまいて給与します。この餌付けは、入雛後速やかに、午前２回午後２回程度餌付けすると、餌を食べることを早く覚え、発育が促されます。
・10 日齢位までは、給餌器は浅い容器を使いましょう。
・出荷前１週間以上は、休薬飼料（飼料中に抗生物質・抗菌剤等が含まれていないもの）を給与しましょう。

4．水管理

・雛に与える水はバケツ等にくみ置きして室温にしたものを使いましょう。冷たい水は厳禁です。
・清潔で新鮮な水が飲めるように、毎日の給水と定期的な給水器の洗浄を行いましょう。



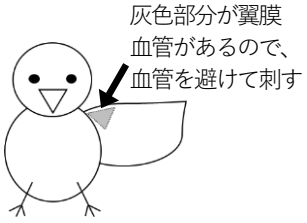
5．悪癖対策

・雛が成長するにつれ、お互いの尻などをつつきあう尻ツツキ（カンニバリズム）が発生することがあります。十分に換気して高温多湿を避け、大きな物音や追い回すなどのストレスをかけないようにしましょう。
・尻ツツキの予防にはデビーク（６～10 日齢にくちばしを 1/3 程度焼き切ること）が有効です。緑餌などつつくものを与えたり、つつかれた鶏の逃げ場所になる「止まり木」を設置することも予防や対策に効果的です。

6．疾病予防

・鶏の病気は予防が基本です。日常の衛生管理に加えて、ワクチンの活用も検討しましょう。
・ワクチンの購入には獣医師の処方箋が必要です。あらかじめ地域の獣医師と相談して事前準備しましょう。
・飲水投与ワクチンを希釈する水は、水道水を１日以上くみ置きして塩素をとばしてから使いましょう。
・飲水ワクチンは投与前１～２時間給水を止めてから与え、２時間程度で飲み終えるようにしましょう。
・穿刺用ワクチンは専用器具を使って翼膜へ接種しましょう。

接種日齢	ワクチン	予防疾病	投与方法
0	ＭＤ	マレック病	ふ化場で接種済
5	ＮＢ	ニューカッスル病および伝染性気管支炎	飲水投与
9	ＦＰ	鶏痘	穿刺
21	IBD	伝染性ファブリキウス嚢病（ガンボロ病）	飲水投与
28	ＮＢ	ニューカッスル病および伝染性気管支炎	飲水投与



7．その他

・飼料給与量、体重、飼育環境についての記録をつけると、次回以降の飼育管理に役立ちます。
・野生動物が侵入しないよう、飼育エリア周囲に電気牧柵やネットを設置するなど対策を行いましょう。